

# 戦争法1年 たたかい止まらない 国会前、雨つき2万3000人 市民と野党の共同さらに 全国400カ所超

しんぶん赤旗 2016年9月20日

安倍晋三政権による戦争法（安保関連法）の強行から1年となった19日、「戦争法をぜったい廃止に」と、全国各地で集会やデモが行われました。総がかり行動実行委員会が呼びかけた国会正門前の行動には2万3000人（主催者発表）が参加。市民の代表や4野党の国会議員、学者、弁護士らがマイクを握り、「市民と野党の共闘を進める決意の日に」と訴えました。

行動中は雨が降り続けました。終盤には日も落ちはじめ、肌寒さを感じるなか、参加者は「戦争する国絶対反対」「みんなの力で憲法守ろう」と力強くコールしました。「衆院選も野党共闘」「戦争に加担しない」「自衛隊員のいのちを守れ」などの手書きのプラカードも揺れました。

「1年前も雨だったわね」。東京都府中市に住む女性（63）は、昨年も国会前で声をあげていました。「微力だけど、私も行動するようになりました」。自身のブログで、デモの情報を発信しているといいます。「まだあの時の怒りは忘れていません。市民と野党の共闘をこれからも続けて、必ず政治を変えたい」

実行委員会を代表して3氏があいさつ。高田健さん（解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会）は「この1年、全国でたたかいが広がった。今日も、四百数十カ所で行動しています。大変な力です」と強調します。小田川義和さん（憲法共同センター）は、「昨年は『野



（写真）戦争法廃止を訴える国会正門前行動の参加者＝19日、東

京都千代田区

党は共闘』とこの場所で声をあげた。今年は『本気で共闘を』といたい」とのべました。

安全保障関連法に反対する学者の会、安保関連法に反対するママの会@東京、日本弁護士連合会などの代表が連帯あいさつしました。元シーلزの林田光弘さん（大学院生）は「戦争法が違憲であることを忘れてはいけない」と指摘します。「現状を嘆くにはまだ早い。日本国憲法はまだ死んでいません。路上に出て意思を示しましょう。僕たちは一度だってあきらめてない」

元自衛官の井筒高雄さんは、自衛隊の派遣が狙われる南スーダンの危険性を指摘。「安保法制によって、自衛隊員の命が軽く扱われている」と訴えました。

最後に、実行委員会の福山真劫さん（戦争をさせない1000人委員会）が行動提起。今後のたたかひの基本として「市民運動で安倍政権を包囲すること、そして選挙で勝利することです」と語りました。

さいたま市から参加した男性（75）は、「憲法改悪STOP」と書かれたプラカードを手にしながらコールをしていました。「これほど民主主義、立憲主義を考えた1年はなかった。これからは地道に周りの人に広げていく」と語りました。

## 戦争法1年 国会前 4野党代表が勢ぞろい 衆院選でも共闘を



**(写真)そろってコールにこたえる4野党代表。左から福島、岡田、志位、木戸口の各氏=19日、国会正門前**

19日、国会正門前では、4野党の代表が勢ぞろいし、スピーチしました。

日本共産党の志位和夫委員長は「野党と市民の共闘を、総選挙でさらに発展させて、安倍政権を倒し、新しい政治をみんなの手でつくろう」と力を込めました。

民進党の岡田克也前代表は「(戦争法を) 廃止していくのが国会の仕事だ」と強調し、「市民を中核にして野党がみんなで協力して、次の総選挙もしっかりたたかい抜いていく」と決意を表明しました。

社民党の福島瑞穂副党首は「解釈改憲にも明文改憲にも反対」と訴え。参院岩手選挙区で野党統一候補として勝利した生活の党の木戸口英司議員は「東日本大震災のときに支えてくれた自衛隊が、戦争状態と言える南スーダンに送られる」と述べ、戦争法廃止を呼びかけました。

## 戦争法廃止！国会正門前行動での志位委員長のスピーチ

安保法制＝戦争法強行1年で19日に行われた「戦争法廃止！国会正門前行動」での日本共産党の志位和夫委員長のスピーチは次の通りです。

### 市民の運動は日本の政治を変えた——総選挙

#### で野党と市民の共闘をさらに発展させよう

みなさん、こんにちは。(「こんにちは」の声、拍手)

昨年9月19日、安倍政権は、安保法制＝戦争法を強行しました。

許し難い暴挙ですが、この暴挙に反対する市民の運動は、日本の政治を変えたのではないのでしょうか。(「そうだ」の声、拍手)

市民の運動に背中を押されて、参議院の32の1人区のすべてで野党統一候補が実現し、11の1人区で激戦を制して野党が自民党に勝利しました(「おー」の声援)。自民党が「重点区」と位置づけ、安倍首相が何度も応援に入った選挙区で、自民党を軒並み倒したじゃないですか。(「そうだ」の声、拍手)

野党と市民の共闘は、第1ラウンドでは大きな成果をあげたと言ってよいのではないのでしょうか(拍手)。市民のみなさんの運動に、心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。そして、民進党のリーダーとして頑張ってくれた岡田(克也前代表)さんに、心からの敬意を申し上げたいと思います。(拍手)

第2ラウンドは、いよいよ総選挙です。野党4党は、総選挙においても「できる限りの協力を行う」ことを、党首会談でも、幹事長・書記局長会談でも何度も確認しています。ですから、総選挙で、野党共闘をやるか、やらないかが問題ではありません。いかに、よりよくやるかが問題ではないのでしょうか。(「そうだ」の声、拍手)

野党と市民の共闘を、総選挙でさらに発展させて、安倍政権を倒し、新しい政治をみんなの手でつくろうじゃありませんか。(「そうだ」の声、大きな拍手)

安保法制の差し迫った危険——南スーダンは「内戦状態」、自衛隊の  
任務拡大を許すな



(写真) あいさつする志位和夫委員長＝19日、国会正門前

安保法制＝戦争法は強行から1年たって、全面的な運用段階に入ってきております。

とりわけ、私たちが「差し迫った危険」として心配しているのは、南スーダンPKO（国連平和維持活動）に派兵されている自衛隊に、新たな任務を与え、武器使用を拡大するという動きであります。

いま南スーダンはどうなっているのでしょうか。この7月、首都のジュバで政府軍と反政府軍が大規模な軍事衝突を起こし、300人以上が死亡しました。この事態を受けて8月、国連安保理が4000人も追加部隊の派兵を決め、この部隊には事実上の先制攻撃の権限が付与されました。まさに南スーダンは内戦状態となっています。

私は、2月の衆院予算委員会で、国連の資料をもとに、「内戦状態だということを認めるか」と安倍政権をたどしましたが、それを認めようとしません。「武力紛争は起こっていません」「首都ジュバは平穏です」と繰り返しました。しかし、もはやそんなゴマカシは通らないことは明らかです。世界の政府の中で、南スーダンが内戦状態ではないなんていっている政府は日本政府しかありません。

安保法制＝戦争法による自衛隊の任務の拡大は、絶対に許してはなりません。（「そうだ」の声、拍手）

## 憲法違反の安保法制の発動を許さず、廃止をもとめる新たなたたか

### いを

憲法違反の安保法制＝戦争法の発動を許さず、廃止する、そのための新たなたたかいを広げようではありませんか。

日本の政治に、立憲主義、民主主義、平和主義を取り戻すために、最後まで頑張り抜くことをお誓い申し上げまして、私の決意表明といたします。頑張りましょう。（「がんばろう」の声、大きな拍手）

## 国会前行動

### 改憲阻止・戦争法廃止 民進・社民・生活訴え

19日の「戦争法廃止！国会正門前行動」では、日本共産党の志位和夫委員長をはじめ、各野党が安保法制＝戦争法の廃止、憲法改定の阻止を訴えました。

民進党の岡田克也前代表は「安倍（晋三）首相は、集団的自衛権を限定なく行使することは、憲法の平和主義に反しないと言った。とんでもない誤解だ」と指摘。「そのもとで（改憲の）議論をしていけば、憲法の平和主義が全くおかしくなってしまう。だから私たちは結束しなければいけない」と改憲阻止の決意を述べました。

社民党の福島瑞穂副党首は、沖縄の辺野古新基地や高江の米軍ヘリパッド＝オスプレイパッド（着陸帯）の建設強行を批判。その上で「戦争法は廃止しかない。野党が提出した戦争法廃止法案が審議される状況を一緒につくっていこう」「沖縄を切り捨てる安倍内閣は退陣を」と呼びかけました。

参院岩手選挙区で野党統一候補として勝利した生活の党の木戸口英司議員は「野党結集の力で当選できた。その歴史的な意義を、身体をもって分かっている」と強調。「政治を変え、みなさん

の安全、安心、暮らしを守る。各野党と一緒に生活の党も一丸となって働いていく」と力を込めました。